



望

と

勇

令和8年8月28日

No.19

文責 田中 誠

さながら「学術大会」の様相



校舎内、メインの廊下には夏休みの自由研究が掲示されています。東小学校は学年の廊下がないため、共通の廊下に掲示せざるを得ないのですが、毎年のことながらこれが奏功しています。いろいろな学年の、いろいろな研究に触れることができ、思わず立ち止まってしまうこともしばしばです。来週の「学校へ行こうDAY」の折にぜひご覧ください。

昨今の教育界のホットワードの一つに「探究」があります。皆さんもどこかで耳にされたことがあるのではないのでしょうか。自分が不思議だ、どうしてだろうと問いをもったことに対して、文献等で調べたり実際に試したりするなどして問いの解決の手がかりになる情報を集め、それらを分析して最適解を導く。そこから生じた新たな問いに対し、同じようにアプローチし続けていく。言葉にするとなんだかややこしいですが、要するに、問題の解決に向けて粘り強く考え続ける営みと理解できます。この自由研究のような取組のことです。

特に興味深いのは、正解が明らかでない問題に取り組んでいる研究です。「引退間近の大好きな鉄道車両が走っている時間を独自に調査し、効率よく残りの活躍を楽しみたい」「お母さんに怒られることを減らしたいので、どういうときに怒られるか調査して今後の生活に生かしたい」「絵を描くことが好きなので、『思わず食べたくなるパン』の描き方を通してスキルを身に着けたい」などなど。どこかに示されている正解を求めるだけでなく、未知なる事柄（業界ではUNKNOWN と呼ぶ方もいます）を解明しようという取組は、大学の研究も夏休みの自由研究も大差ありませんね。さながらこの時期の各校は学術大会の様相です。

願わくば学校の授業も探究になればいいと、いろいろな実践が積み重ねられています。本校も然り。予め学習する内容が決まっているのが小学校の授業なのですが、授業の冒頭で「どうしてだろう」と思えるように先生方が工夫しています。参観の折にはウチの子、探究してるかな？という視点でもお楽しみいただければと思います。

